

第 29 号

正福寺報

平成 27 年正月号

臨濟宗 円覚寺派

住職 松原 行樹

TEL 045-811-3800

FAX 045-811-6304

shouhukuji@nifty.com

〒245-0053 横浜市戸塚区上矢部町 3 4 0

<http://shouhukuji.com/>

つまずいても

正福寺住職 松原行樹ぎょうじゆ

金子みすゞさんの詩に、「石ころ」
があります。

きのうは子どもを
ころばせて
きょうはお馬を
つまずかす。
あしたはたれが
とおるやら。

いなかのみちの
石ころは
赤い夕日に
けろりかん。

境内には石が多いので、私もよく石
につまずきます。そうすると決まっ

「何でここに石があるんだ」と思っ
ては蹴飛ばしたり文句を言います。

しかし、石は最初からそこにあつた
わけですし、文句を言いたいのはむし
ろ石のほうでしょう。

私たちは普段生活をしていると、
様々なものにぶつかり、またつまずき
ます。そして思い通りにならないこと
を嘆くのです。

つまずくというのは、逆境のことで
す。つまずきたくて、つまずこうとし
ている人はいないでしょう。けれど実
際は、思い通りにならないのが人生で
あり、またつまずいてしまう私たちで
あります。

石ころは蹴られても踏まれても、赤
い夕日をたたえて、「けろりかん」と
しているように、順境も逆境も全部あ
りがたくいただき、「あのととき、つま
ずいたおかげで今の私がある」と言え
るような日々を送りたいものです。